

2018年2月クルディスタン報告書

日本クルド友好協会



南クルディスタン(イラク北部クルディスタン地域)



イラク中央政府並びにイランの傭兵であるシーア民兵とクルディスタン地域の争いに乗じた、ISの復活というシナリオが現実味を帯びてきつつある。先月31日、[イラク治安部隊アンワル・アッダヌウク准将がISに暗殺される](#)という事件が起きた[1日、イラクニュース]。3日、[キルクーク市のクルド人地区で17歳の少女が刺殺体となって発見](#)された[4日、バスニュース]。イランが支援するシーア民兵集団によるキルクークの治安は悪化し、殺人、強盗、誘拐が日常茶飯事となっている。ゴラン(変化運動)の幹部によれば、シーア民兵の占領により急速な治安悪化に直面したキルクーク市民は、[クルド人部隊ペシュメルガの帰還を待ち望んでいる](#)という[14日、バスニュース]。14日、[モスルで人民動員軍が警察と小競り合い](#)になるという事態も発生した。人民動員軍はイラクの法によって合法的な準軍事組織と認められているが、その実態はフセイン政権崩壊後に各地で結成された私兵部隊の寄せ集めであり、軍隊としての規律ではなくそれぞれの指導者への忠誠によって成り立っている。それゆえ占領地における住民虐殺、略奪に手を染めていると批判されており、治安維持能力は低いと言わざるを得ない。6日、アメリカ政府は、[イランの支援を受ける民兵勢力「人民動員軍」によるアメリカ軍部隊への攻撃の脅迫を一蹴](#)した[7日、クルディスタ

ン24]。人民動員軍の一角をなす「バドル軍団」は、「アメリカ軍の駐留はイラクの分裂とテロを誘引する」とし「完全撤退」を要求したが、アメリカ政府は全く考慮する余地がないとした。

予算配分問題は、相変わらずイラク中央政府とクルディスタン地域政府(KRG)との間の主要問題である。中央政府は、クルディスタン地域の取り分が少なくなる2018年度予算案を作成している。イラク議会議員ジャブーリは、[中央政府が提示した予算案を「違憲」として非難](#)した。



ルダウのインタビューに答えるジャブーリ議員

ジャブーリはスンニ・アラブの議員であるが、イラクで少数派という点でクルド人と利害を共有している。IMFは中央政府にKRGへの予算配分を増やすよう勧告しているが、イラク首相アバディは聞き耳を持たない。KRGの政府運営の原資となる石油収入においては進歩もあった。27日、イラク首相アバディは、[キルクークからの石油輸出についてKRGと合意した](#)と発表した[27日、バスニュース]のである。

先月20日から続くトルコの北シリア・アフリン侵攻に対し、イラクのクルディスタン地域でも抗議とロジャバ(シリア領西クルディスタン)への連帯が広がっている。7日、[イラクのクルディスタン地域、北シリア各地のクルド人がアフリンに入域](#)しトルコの侵略行為に反対する抗議運動を行った[7日、クルディスタン24]。13日には、トルコが国家最大の脅威と位置付けるクルディスタン労働者党(PKK)が、[クルディスタン地域北部のザーホーでゲリラ作戦を敢行し22人のトルコ兵を殺害した](#)

[と発表](#)した[14日、ユーフラテスニュース]。イラクは PKK の本拠地があることから、トルコ軍による空爆や国境侵犯が続いている。

ロジャバ(西クルディスタン、北シリア)



北シリアにおいては、トルコによるアフリン侵攻作戦が続いている。2月には、トルコ軍の傭兵の役割を果たす「自由シリア軍」の残虐行為で幕を開けた。2日、[アフリンにおいて戦死したクルド人女性兵士の遺体をトルコ軍傘下の武装勢力が切断、損壊し侮辱する動画が SNS 上にアップされ](#) ([閲覧注意](#)) 多くのクルド人の怒りを招くことになった。このような残虐な行為は、トルコ軍の強力な支援によって不問にされると当事者たちは考えていると思われる。シリア反体制派勢力は、数年前にもシリア・アラブ軍兵士の死体から心臓を取り出し食べる仕草を様子を収めた動画を公開し、物議をかもしたことがあった。今回の一件は、シリア各地で劣勢のシリア反体制派勢力の道徳性に改めて疑問を投げかけられる結果になった。



トルコ軍傘下の武装勢力の凶行の犠牲者となった女性兵士バリン・コバニ (出典: AFP)

トルコの戦況報道に対する疑問も噴出することになった。先月 31 日トルコ国営アナドル通信は、国境付近の要衝ブルブル地区をトルコ側が占領したと発表した。シリア人権監視団の発表によると、その時点で実際は同地区へ到達したのみで衝突が始まったばかりであった。4 日、英 BBC はトルコ側とクルド側それぞれが発表した損害、敵殺害数について報じた[4 日、BBC]。トルコ軍の補助部隊として行動する反体制派勢力の損害は不明である。クルド系メディアは以前よりトルコ領内の対 PKK 作戦において、トルコ軍の死者が過小に報道されているまたは戦死を事故死と意図的に誤って報じていると批判してきた。エルドアンは作戦の長期化とトルコ軍兵士の犠牲の増加が自身への批判となって跳ね返ってくることを恐れている。

アメリカは結果としてトルコのアフリン侵攻を許すことになったが、軍部隊が駐留する北シリア各地からは一步も退かず、トルコ軍のこれ以上の戦線拡大を阻止する意向を継続して見せている。先月 31 日、[アメリカ中央軍ジョセフ・ボテル将軍は、アメリカ軍が引き続きシリア民主軍と協力していくことを発表した](#)[1 月 31 日、在エジプト・アメリカ大使館公式サイト]。5 日、[人民防衛隊\(YPG\)報道官シパン・ヘモは汎アラブ「中東」紙の電話取材に対し、アメリカ軍はトルコ軍のマンビジュ侵攻を断固として許さない方針](#)であることを明らかにした[5 日、アラブニュース]。同日、ワシントンタイムズ紙は、マンビジュにおけるトルコ軍とアメリカ軍の衝突の可能性について報じた。トルコでは現在急速に反米世論が高まりつつあり、それは特にエルドアンの支持層と一致する。アメリカとしては、トルコ軍の侵略的な軍事行動を支持することはないが、NATO 同盟国同士が衝突する事態を避けるため、アメリカ軍が駐留していないアフリン侵攻は事実上黙認するが、マンビジュからユーフラテス東岸から軍を撤収することはないとの立場を明らかにしたことになる。7 日、[アメリカ陸軍ポール・E・ファンク中將はマンビジュを訪問し、IS の完全な壊滅のためにアメリカ軍が同地に留まりクルド人勢力へ支援を続けることが重要だと語った](#)[7 日、ABC ニュース]。28 日、[アメリカ国務省ヘザー・ノーアート報道官は、シリアの停戦にはアフリンも含まれるべきと発言](#)した[29 日、バスニュース]。ウォールストリートジャーナルには、7 日[シリアのクルド人を支持しエルドアンの暴走を止めるべきといった趣旨のコラムが掲載](#)された[7 日、ウォールストリートジャーナル紙]。

トルコは、今回のアフリン侵攻以前にもイラク連邦政府の許可無しにイラク領内進駐、2016 年 7 月の「ユーフラテスの盾」等々と国際法を無視した軍事行動を続けてきた。また歴史的にも周辺各国へ違法な侵略行為を行ってきた。今回の行動は当然のことながら、周辺地域に警戒心を抱かせた。2016 年のトルコのクーデタ未遂事件関係者引き渡し問題で、トルコとギリシャには火種

が存在する。2日、ギリシャ国防相は、[先月31日だけで138回もの領空侵犯を犯した](#)と発表した[2日、RT]。12日には、[エーゲ海のイミア島においてトルコ警備隊の船舶がギリシャの巡視船に体当たりをするという事件](#)も起きた[12日、「毎日」紙]。1日、エルドアン政権寄りのトルコメディアにおいて、[トルコ軍の北シリア侵攻はギリシャに警戒心を生じさせるという趣旨のコラム](#)が掲載された[1日、トルコ「新たな夜明け」紙]。今回のアフリン侵攻を、1974年のキプロス侵攻とアナロジーする言説も散見された。アフリンと同じくトルコの侵略行為の被害者であるキプロス共和国は、[作戦開始の2日後国際法を無視したアフリン侵攻作戦を非難](#)している。エルドアン政権寄りの日刊「朝」紙において、[現在同様アメリカとの関係が危機的状況に陥った例としてキプロス侵攻を論じるコラム](#)が掲載された[15日、「朝」紙]。なぜキプロス侵攻が今回のアフリン侵攻を考える上で重要かといえば、その「戦後処理」が似通ったものになるであろうと考えられるからである。トルコは1974年のキプロス侵攻後、トルコ系住民の多い北部を分離し傀儡国家を樹立させた。[エルドアンはアフリンを占領後シリア難民を流入させることを目論んでいる](#)[16日、「自由」紙]。アフリンからは既に多くのクルド人住民が脱出している。そこにアラブ系シリア難民が流入すれば人口比に変化が生じる。またアフリン地域にはテュルクメン住民を居住する。エルドアンは、シリア難民とテュルクメン住民を背景にアフリンを、占領下にあるシャフバ、ジャラブルスと連結させた傀儡国家にし、あわよくばハタイ県のように併合を狙うだろう。そのトルコの傀儡国家北キプロスは、先月21日[トルコによるアフリン侵攻が開始された1日後直ぐに支持を表明](#)した[1月21日、アナドル通信]。

24日、北シリアを実質的に統治する民主統一党(PYD)の前共同代表サリフ・ムスリムが、[滞在先のプラハでチェコ警察に逮捕](#)された[25日、ワシントンポスト紙]。チェコ警察は翌日25日、「外国人を摘発」したとだけ発表した。



Police of the Czech Republic - CMP of the Capital City of Prague

Detention of an alien in the center of Prague

The police detained a person in Interpol.

Prague police detained in the night from Saturday to Sunday, on the basis of the prior consent of a public prosecutor of a 67-year-old foreigner who was in the viewpoint of Turkish Interpol. After the necessary actions, he was placed in a police cell. His international detention was informed of his detention by Ankara's Interpol officials. The Police of the Czech Republic will continue to proceed as required by Act No. 104/2013 Coll., On International Judicial Cooperation in Criminal Matters.

mjr. Mgr. Andrea Zoul - February 25

トルコ政府の要請があったことが明らかになった。トルコは直ぐにトルコへの身柄引き渡しに向けた手続きをチェコ政府に要請した。しかし 27 日、[チェコ当局はムスリムを解放した](#)[27 日、「自由紙」]。結局チェコ政府はトルコの要求に国際的な水準から見て、外国人の身柄拘束と引き渡しを要請するに足る正当な理由があるとは認めなかった。ムスリムは、トルコ軍の侵攻に直面するアフリンへの支持を求めヨーロッパ各地に赴き、各国のメディアでトルコによる侵略行為の不当性を訴えていた。トルコ内務省は、隣国シリアの自治組織の指導者であるムスリム氏を一方的にテロリストとし、調査対象一覧に加えている。

 ALİ HAYDAR KAYFAN TUNCELİ-1952 DOĞUMLU PKK/KCK Terör Örgütü	 NURİYE KESBİR BATMAN-1961 DOĞUMLU PKK/KCK Terör Örgütü	 SABRİ OK ADİYAMAN-1958 DOĞUMLU PKK/KCK Terör Örgütü	 HÜLYA ORAN TUNCELİ-1978 DOĞUMLU PKK/KCK Terör Örgütü	 MEHMET KEREM OVACIK-1978 DOĞUMLU MKP Terör Örgütü
 ADİL ÖKSÜZ ANDIRIN-1967 DOĞUMLU FETO/PDY Terör Örgütü	 İSMAİL ÖZDEN BATMAN-1952 DOĞUMLU PKK/KCK Terör Örgütü	 ZERRİN SARI OSMANIYE-1963 DOĞUMLU DHKP/C Terör Örgütü	 FERHAD ABDİ ŞAHİN SURIYE / AFRİN PKK/KCK Terör Örgütü	 SALİH MÜSLÜM SURIYE-1951 DOĞUMLU PKK/KCK Terör Örgütü

トルコはクルド人反体制派のみならず、ギョレン派對策のためにもヨーロッパ各国に諜報網を広げ、暗殺者を送り込んでいると見られる。トルコが、エルドアン政権に不都合な人々を逮捕、殺害するために、各国の主権を侵害することを厭わないことを世界に示した事件であった。そして、ヨーロッパ諸国はエルドアンの願望を素直に聞き入れるつもりはないことも同時に明らかになった。

文責：日本クルド友好協会研究員 並木宜史